

# 新井武志



「この前産まれたばかりだと思ったのに、えっ？もう大学生？ 早いもんだねえ〜」

これが、十九年という歳月。

舞台上に立って十九年、佐渡に来て二〇年。

乳児が大学生になる程の成長は無かったとしても、人として少しは成長できたかな。

一九九二年四月、佐渡に渡った。  
太鼓に興味があつたわけではない。

前年末、ふらつと入った新宿シアターアプル。

舞台上の人達が楽しそうに見えた。いきいきしてた。

で、仲間に入りたと思った。

和太鼓に関する知識どころか

音楽に関する知識もほぼゼロに近かつた。

太鼓経験は小学生の時、地元でちよつとだけ。

当然憧れの太鼓打ちも目標とする太鼓打ちもいない。

ただ、仲間に入りたと思った。

研修所でひとつだけわかつたことがある。  
太鼓は楽しい。

そんな自分がここまでやってこられたのは、  
自分以外の「すべて」のおかげ。

すべてのひと。

支えてくれたスタッフ、先輩、後輩。

見守ってくれた家族。

公演に足を運んでくれたお客様。

そして何より応援してくださつたファンの皆様。  
たびたび耳にした。

「武志さんて、結構隠れファンがいるんですよ」

隠れてたファンの皆様、ありがとうございます。

すべてのもの。



雨にも負けず、風にも負けず、

日本中を一緒に走りまわつたトラック、バス。

未熟な技術、未熟な心を補つて余りある音を

響かせてくれた太鼓やバチ達。

「まあまあ良い音出せるようになったんじゃないの。」  
なんて言ってもらえれば幸い。

そして佐渡のすべて。

海に慰められ、山に励まされ、風に癒され、  
星に包まれ無になれる。

春にほころび、夏に解き放たれ、  
秋に恵まれ、冬に戒められる。

ときどきたぬきにヒヤツとさせられる。  
朱鷺にはまだ出会えていない。

祭りにこころよく迎え入れてくれた小木町の若衆。  
大切な仲間。

最近息子達が、友達同士で佐渡弁で話しているのを  
聞いて、少しは佐渡に根付けたかな、と感じる。

挙げればきりが無い「すべて」。  
その「すべて」にただただ感謝。

さて、これから恩返しの旅に出るか。

裏から下から後ろから、

新たなる一步を踏み出した鼓童を支えながら。  
引き続き皆様に支えられながら。

まだまだ叩ける、その体力を温存しつつ、  
いざ、余力を残して次の「舞台」へ。

新井武志(あらいたけし) 1967年5月9日生まれ 埼玉県出身

1992年研修所入所、準メンバーを経て1993年10月より舞台メンバー。  
この4月で舞台生活に区切りをつけ、新たな仕事として舞台を支えるスタッフとして活動することとなった。舞台メンバーとしては、太鼓はじめ鳴り物など幅広く担当。(指笛は鼓童1だと思う…) しっかりベースを刻んで全体を見渡す役割を果たしてきた。「隠れファン」以外にも、意外に「男性ファン」も多く、舞台を降りるには惜しむ声も多い。

祭り好き。小木祭りでは「べたなぎ会」で神輿をかつぐ。翌日、日焼けたおでこ声がかれている(酒やけか?)あたりに祭男の片鱗がのぞく。

家庭では二人の男の子の父。佐渡にいる期間の日曜日には地元の少年サッカークラブで指導、監督もつとめるスポーツマン。

目立ちすぎずにいつでもそこにいる存在は、少し立場を変えて旅の生活を続けていきます。